

ただいま工事現場から 第 1 号

～富士山静岡空港編～

牧之原市にある富士山静岡空港旅客ターミナルビルの増築・改修工事現場を御紹介します。また、営繕工事に関わる県建築職員はどのような仕事をしているのか覗いてみましょう。

まずは、今回の工事の目的・概要を知っておきましょう。

富士山静岡空港では、より一層の空港利用促進及び空港の利便性向上を図るため、旅客ターミナルビルの増築・改修を進めています。平成 30 年秋に工事が完了する予定です。



外観イメージ



2階内観イメージ

県の建築関係職員は、どのような仕事をしているのでしょうか。

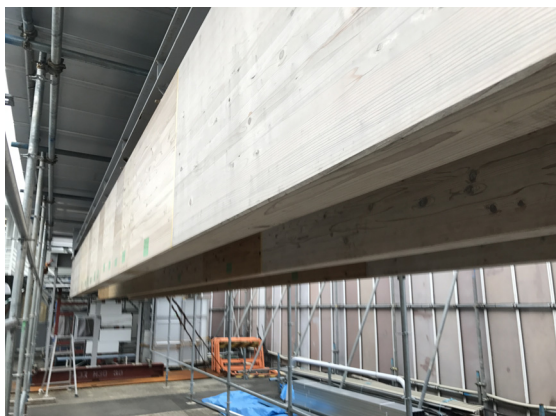
営繕工事に関わる県の建築関係職員は、「工事監理」といわれる仕事をしています。

工事監理では、現場に足を運び、設計図書どおりに施工されるよう関係者との調整や工事工程の管理、現場の立会い、検査の受検などを行います。



それでは、現場の中を見ていきましょう。

前頁の内観パースにもあるように天井の木梁が特徴の一つです。モックアップ（実寸模型）を作製して、施工性や木の塗装の色合いなどをあらかじめ現場で確認しています。木梁は幅 120mm、せい（高さ）595mm で、700mm 間隔で設置していき、約 220m³ の県産材を使用します。



モックアップ（実寸模型）



実際の施工

既存建物と増築部分の設備配管等を接続するために利用中の既存建物の天井を一時的に取り外しています。

既存建物についても部分的に改修工事を行います。

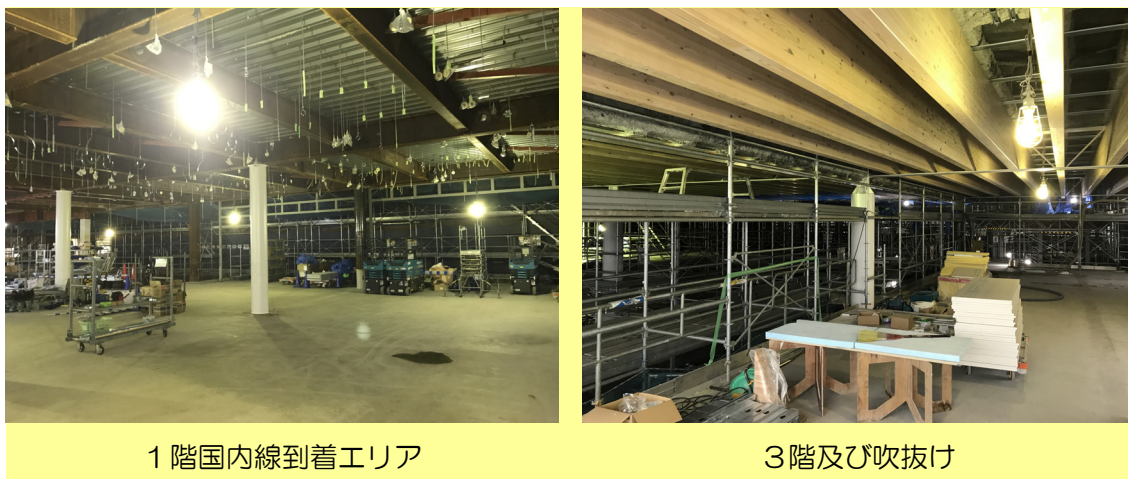


↑ 既存建物の天井

↓ 既存と増築の接続部分



左側が既存の空港ターミナルビル（青い部分は外壁）、右側が今回増築する部分です。今後、これらを接続する工事を実施し、一体の建物とします。また、空港で働いている方々の業務を妨げないように、工事騒音等に配慮して工事を行っています。



左の写真は 1 階国内線到着エリアです。内装の工事はこれからなので、天井裏に隠れてしまう鉄骨の梁などが見えます。

右の写真は 3 階と吹抜け部分です。左奥は完成時に吹抜けとなりますが、現在は工事作業のため足場が組まれています。

おまけ



空港利用者の安全を確保するための通路です。外国人利用者にもわかりやすいように英語・中国語・韓国語を併記しています。



設計者・施工者

【設計】坂茂建築設計・日本空港コンサルタンツ JV[※] (BANJAC)

【施工】建築：戸田・大河原 JV[※]

電気：トーエネック・太洋 JV[※]

機械：テクノ菱和・富山冷熱 JV[※]

※ JV：特定建設工事共同企業体

…大規模かつ技術難度の高い工事の施工に際して、技術力等を結集することにより工事の安定的施工を確保する場合等の工事の規模・性格等に照らし、共同企業体による施工が必要と認められる場合に工事毎に結成する共同企業体。(国土交通省 HP より)